



UNIC Tokyo Dateline UN

October 2005 Vol.60

国際連合広報センター



2005年世界サミットは過去最大規模の指導者の集いとなった ©UN Photo #NICA 88889 by E. Debebe

世界170カ国の首脳が集い国連改革を論議 ～国連創設60周年で～

国連創設60周年を機に、約170カ国の首脳が9月14日から16日までの3日間、ニューヨークの国連本部に集って世界サミットが開かれ、国際社会が直面する緊急の課題と21世紀の世界にふさわしい国連のあり方を討議しました。サミットの「成果文書」(詳報は2-3ページ)は今後、具体化に向けての検討が進められることになりました。

アナン事務総長は世界サミット冒頭の演説^{*}で、分裂や不安定に直面している世界の現状への危機感を表明し、協調した行動や効率的な国連への改革実現の必要性を訴えました。イラク戦争以来、国連への厳しい姿勢が目立つ米国のブッシュ大統領も「国連の役割の重要性」を指摘、貧困撲滅や自由の拡大への国際社会の協調を求めました。

日本からは総選挙直後という過密日程のなかで小泉純一郎首相が出席しました。安全保障理事会の拡大問題は今後の議論にゆだねされることになりましたが、小泉首相は演説で、常任理事国入りをめざす日本の決意を改めて表明するとともに、弱い立場の人々に手をさしのべる「優しい国連」、テロとの闘いなどに積極的役割を果たす「強い国連」、そして、この60年間の世界の変化を反映した「効果的な国連」にしなければならないと呼びかけました。

*事務総長の世界サミット演説
(日本語)は下記をご覧ください。
www.unic.or.jp/new/pr05-080-J.htm

INSIDE

2005年世界サミットの成果	2-3
アナン事務総長 第60回国連総会における演説	4-5
エリアソン第60回総会議長の略歴	5
子どもたちからのメッセージ	5
寄稿：世界の貧困問題に挑む、マイクロ・クレジット・プログラム	6
グローバル・コンパクト世界の動き： バルセロナ会議に参加して	7
日本・国連親善大使に千玄室氏	7
UN Gallery : WFP世界の学校給食展2005	8

<http://www.unic.or.jp/>



2005年世界サミットの成果

世界の指導者は2005年9月14日から16日にかけ、国連本部で会合を開き、幅広いグローバルな課題に対処することで合意しました。最終文書の全文はサミットのウェブサイト (www.un.org/summit2005) でご覧になれます。

開発

Development

- * 援助国、被援助国にかかわらず、あらゆる政府は2015年までにミレニアム開発目標を達成することを強くはつきりと約束する。
- * 2010年までに、さらに年間500億ドルを貧困対策のために拠出する。
- * すべての開発途上国は2006年までに、ミレニアム開発目標の達成を目指した国内計画の採択を約束する。
- * マラリア対策、教育、保健医療を支援するための即効性のあるイニシアチブに対し、直ちに支援を提供することに合意する。
- * 「国際開発資金調達制度 (International Finance Facility)」、および、特に保健部門の開発プロジェクトの資金調達を目的とする他のイニシアチブ実施に向けた各国グループの取り組みを含め、開発金融の革新的資金源を探ることを約束する。
- * 無償資金協力の増額、重債務貧困国 (HIPC) の公的多国間・二国間債務の全額帳消しなどにより、長期債務の持続可能性を確保する追加的措置を検討することに合意する。低・中所得開発途上国で、HIPCイニシアチブの対象とならない持続不可能な債務負担を抱える国々についても適宜、大幅な債務の軽減あるいは再編を検討する。
- * 貿易の自由化と、ドーハ作業計画の開発面の実施に向けた迅速な作業を約束する。

テロリズム

Terrorism

- * すべての政府は初めて、「誰がどこで、どのような目的で実行しようとも、あらゆる形態の」テロを、はつきりと無条件で非難する。
- * 包括的テロ対策条約を1年以内に成立させるよう、政治的取り組みを強化する。「核テロ条約」の早期発効

を支持する。すべての国々に対し、その他12のテロ対策条約とともに、同条約に加入し、これを実施するよう促す。

* 国際社会を強くし、テロリストを弱くするようなテロ対策戦略の策定に合意する。

平和構築 / 平和維持 / 平和創造

Peacebuilding, Peacekeeping and Peacemaking

- * 各国の戦後の和平を支援するため、支援室と常設基金を備えた「平和構築委員会」の創設を決定する。
- * 新たに警察要員を常備し、国連平和維持活動に用いる。
- * 事務総長の調停・仲介機能の強化に合意する。

保護の責任

Responsibility to Protect

* 集団的な国際責任をもつ全政府はジェノサイド、戦争犯罪、民族浄化、人道に対する罪から国民を守る義務をはつきりと無条件で受け入れる。平和的手段では不十分なことが判明し、かつ、国内当局がこれを明らかに怠っている場合、安全保障理事会を通じ、この責任を全うするために、時宜に応じて断固とした集団行動を取る用意があることを表明する。

人権 / 民主主義 / 法の支配

Human Rights, Democracy and Rule of Law

* 行動計画の支援と人権高等弁務官事務所予算の倍増により、国連の人権機構強化に向け断固とした措置を講じる。



事務総長主催の昼食会に出席する各国首脳



2005年世界サミットで演説する小泉首相



各国首脳と意見交換するアナン事務総長（左）

UN Photo #90478 by J. Kristal
UN Photo #91882 by J. Kristal
UN Photo #90395 by M. Garten

- * 来年に「国連人権理事会」を創設することに合意する。
- * 民主主義の普遍的価値を再確認するとともに、すでに13カ国から3,200万ドルの拠出表明を受けた「民主化基金」の新設を歓迎する。
- * 教育と財産所有における不平等や、女性と女児に対する暴力など、幅広く見られる男女差別をなくすとともに、このような暴力は必ず罰することを約束する。
- * サミット期間中の批准行為により「腐敗防止条約」が発効した。

管理改革

Management Reform

- * 内部監査部をはじめとする国連の監査能力を幅広く強化し、監査活動の対象機関を広げ、独立の監査諮問委員会の設置を呼びかけるとともに、新設の倫理部をさらに発展させる。
- * 時代遅れの活動を取りやめて新たな優先課題に取り組めるようにするために、5年以上を経過した活動をすべて見直し、国連をアップデートする。
- * 予算、財務および人事に関する規則を徹底的に見直すとともに、国連が今日の課題への取り組みにふさわしい人材を備えられるよう、一時的な早期退職奨制度を導入することを約束する。

環境

Environment

- * 気候変動が投げかける深刻な課題を認識するとともに、「国連気候変動枠組み条約」を通じた行動を起こすことを約束する。小島嶼開発途上国など、最も影響を受けやすい人々に支援の手を差し伸べる。
- * あらゆる自然災害に関し、全世界的な早期警報システムの創設に合意する。

国際的保健

International Health

- * 予防、看護、治療および支援を通じ、HIV／エイズ、結核、マラリア対策を拡充するとともに、国内、二国間、多国間および民間の資金源から追加的資源を動員する。
- * 新たな「国際保健規約」の全面実施の確保と、世界保健機関の「世界的な集団発生事例に対する警戒と対応のためのネットワーク（Global Outbreak Alert and Response Network）」に対する支援を含め、感染症と闘うこと約束する。

人道援助

Humanitarian Assistance

- * 中央緊急回転基金（Central Emergency Revolving Fund）を改善し、災害発生時に緊急援助が直ちに信頼できる形で届けられるようにする。
- * 「国内避難民に関する指針（Guiding Principles on Internal Displacement）」を国内避難民保護のための重要な国際枠組みとして認識する。

国連憲章の改定

Updating the UN Charter

- * 下記により、国連憲章の見直しと改定を図ることを決定する。
 - 国連が歴史的な非植民地化の役割を終えたことを示すため、信託統治理事会を解散する。
 - 時代遅れとなった「敵国条項」を憲章から削除する。

コフィー・アン国連事務総長 第60回国連総会における演説（抜粋）

ニューヨーク、2005年9月17日

“If we persevere, we can find collective answers to our common problems.”

* この演説は世界サミットを受けて第60回国連総会の冒頭で行われたものです。

私たちには、国連にとって歴史的な1週間を締めくくろうとしています。

60年にわたる国連の歴史で、これほど幅広い進展が見られた機会はありませんでした。

世界の指導者たちはこの場で、テロの扇動を禁じ、民主化支援の資金拠出を約束し、HIV／エイズやマラリア、鳥インフルエンザの脅威について話し合いました。国連と東南アジア諸国連合（ASEAN）は関係の緊密化に合意しました。EU 3カ国とイランの指導者は、事態の打開に向けて会談しました。中東、ブルンジ、コートジボワール、ハイチについても、重要な議論が行われました。

しかし、何と言っても最大の成果は、世界サミットそれ自体でした。すべてが達成されたわけではありません。結局のところ、多くを期待し、目標を高く設定しすぎた感は否めません。それでも、幅広い問題を一括して取り扱うことで、大きな成果が生まれたことは明らかです。

貧困や病気と闘う戦略の採択、戦争で荒廃した国々に和平をもたらすための新機構の創設、ジェノサイドを防止する集団的行動の約束という点で、サミットは大きな突破口を開きました。テロ、人権、民主主義、事務局運営、平和維持、人道援助についても、実質的な進展が見られました。さらに、グローバルな公衆衛生



©UN Photo #90069 by M. Gerten

や地球温暖化、調停に関し、一層の行動を起こす道が開けました。

今後は新たな課題が控えています。合意されたことを実行に移すとともに、残された意見の溝を埋めるための取り組みを続けなければなりません。サミットの成果は私たちに、個別責任と連帯責任の両方を突きつけています。第60回国連総会で決着をつけなければならない項目も多くあります。

このように課題が山積する1年間の幕を開けるに当たり、私は説明責任の協約を結ぶことを提案したいと思います。それがサミットの成果に盛り込まれた義務を果たすこと、そしてお互いに対して説明責任を負うことを誓おうではありませんか。

私としては、要請された行動をすべて成し遂げる所存です。加盟国で

ある皆様に対しては、もし私がこの約束を守っていないとお考えになるなら、すぐにそう伝えていただくことをお願いしたいと思います。私のほうも、皆様が合意内容の実施をどれだけ進めているかをチェックし、遅れがある場合には、これをはつきりとお伝えします。グローバルな世論もまた、皆様の取り組みの進展状況をつぶさに監視するに違いありません。

ここで改めて、私たちのチェックリストにある重要項目のいくつかと、これをクリアするために必要なそれぞれの取り組みについてお話ししたいと思います。（中略）

【編注：事務総長はこの後、管理改革、人権機構の強化、テロ問題、平和構築委員会の発足、ミレニアム開発目標の達成、安全保障理事会改革、核不拡散と軍縮の7項目を挙げた】

多国間で解決策を見いだすのは不可能に見える時もあります。それでも時折、一歩下がって、これまでの長い道のりを振り返ってみる価値はあるはずです。

1999年にこの壇上から初めてごあいさつした際、私は国際社会がジエノサイドに対処する必要性を呼びかけました。私の発言は、加盟国間で大きな論議を呼びました。しかし、それから6年を経て、多くの国々が懸命な努力を行い、市民社会が全面的に関与し、本質的な懸念に対する取り組みがなされた結果、皆様はすべて、言葉だけではなく行動を起こす厳肅な責任を受け入れるに至りました。皆様のこの約束は今後、試練にさらされることになるでしょう。

この成果は間違いなく、辛苦の末に国際舞台で勝ち取られた革命であり、世界で最も弱い人々にとっての希望の灯なのです。このことはまた、私たちに貴重な教訓を与えてくれました。つまり、我慢強く取り組めば、共通の問題への集団的な回答が見つかるということです。

ですから、自信と決意を持って、作業に取りかかろうではありますか。そうすれば、また、私たちが今週の約束を実行に移せば、数百万人の命が救われ、数十億人に希望が生まれるのであります。国連創設60周年にとって、これほどふさわしい成果はないでしょう。それはまた、今後一層の成果をもたらす土台にもなるはずです。

United Nations

 演説の全文は
[http://www.unic.or.jp/
 new/pr05-082-J.htm](http://www.unic.or.jp/new/pr05-082-J.htm)

第60回国連総会議長 ヤン・エリアソン氏の略歴

ヤン・エリアソン氏は2005年6月13日、第60回国連総会議長に選出されました。エリアソン氏は当時、2000年9月から2005年7月までの任期で、スウェーデンの駐米大使を務めていました。

外交と対外関係の分野で経験豊富なエリアソン氏はスウェーデンの外務次官を務め、外交政策の策定、実施に従事（1994–2000）。それ以前はニューヨークでスウェーデンの国連大使を務めました（1988–1992）。在任中には、事務総長のイラン・イラク担当個人代表や国連総会の緊急援助作業部会議長（1991年）などを歴任しました。

エリアソン氏は1992年、初代の国連人道問題担当事務次長に任命



前議長から総会のシンボルである木槌を引き継ぐエリアソン第60回総会議長（右から2人目）
 ©UN Photo #88231 by P. Filgueiras

されました。任期中にはソマリア、スーダン、モザンビーク、バルカン諸国での活動にかかわったほか、地雷、紛争予防、人道援助に関するイニシアチブも手がけました。

エリアソン氏は1940年、スウェーデンのイエーテボリ生まれ。交換留学生として1957年から1958年にかけて米国で学び、1962年にスウェーデン海軍士官学校を卒業しました。1965年には経済学修士号を取得しています。

世界サミットへ届け 子どもたちからのメッセージ

ニューヨークでの2005年世界サミットの期間中、国連本部の一角に子どもたちが作った長さ14メートル×幅1メートルの横断幕が掲げられました。

この作品は、今年7月に愛知県で開催された「こども環境サミット」の成果として作られたものです。横断幕には子どもたちのハンドプリントで「私たち子どもは環境を守るために皆さんの力を必要としています」と書かれており、各国のサミット代表団に向けた



子どもたちの作った横断幕は世界サミット参加代表団へのメッセージ【写真提供・こども環境サミット2005実行委員会事務局】

子どもたちからの力強いメッセージとなりました。

「こども環境サミット」は国連環境計画（UNEP）と日本側実行委員会（事務局愛知県）が共催して7月24日から29日に行われ、55カ国から約490人の子どもたちが参加しました。

寄 稿

世界の貧困問題に挑む、 マイクロ・クレジット・プログラム

外務省委嘱NGO専門調査員・松浦 宏二

国連は2005年を「国際マイクロ・クレジット年」に定め、少額融資を通じた開発途上国の貧困撲滅と自立支援を目指しています。特定非営利活動法人 チャイルド・ファンド・ジャパンによるフィリピンでの取り組みを例に、マイクロ・クレジットをご紹介していただきます。

いま世界では、極度の貧困により3秒にひとりの子どもが命を落としています。1日1ドル以下の収入で生活をしている人は12億人と言われています。こうした貧しい人々を救う有効な手立ての一つがマイクロ・クレジットです。数千円から数万円程度の「小規模の融資資金」（マイクロ・クレジット）で、貧しい人々でも小さな商売をスタートさせ、収入を上げることができます。この収入で、学校へ行かれなかつた子どもが通学できるようになり、1日1度の食事だった家族が毎日3度の食事を取れるようになるのです。

フィリピン最南端の島、ミナダナオ島。この島の海岸線の小さな漁村に住むハッタ・サイラネさん（39歳）は5人の子どもを抱えた母親です。以前は、ニッパ椰子の葉を葺いた質素な家の一部を使って、手作りの干し魚を売って収入を得ていました。日本の民間海外協力団体「チャイルド・ファンド・ジャパン」（以下チャイルド・ファンド）がこの地域で始めた「小規模ビジネス普及事業」では、読み書きできさえ学ぶチャンスのなかつた貧困層のお母さんたちにも分かるように、体験型ビジネスゲームを使って商売のやり方を研修しています。研修後にマイクロ・クレジットを提供し商売のサポートをします。この研修を受け雑貨店を始めたハッタさんは、2000年から5年間のうちに9回の融資（1回、6,000円



【写真提供・（特活）チャイルド・ファンド・ジャパン】ハッタさんの雑貨店。卵や調味料に缶詰、お菓子、清涼飲料、タバコ、洗剤や石鹼などさまざまな商品が並べられている。このお店は、ハッタさんの生活を支える収入源となるだけでなく、この地域に住む貧困層の人々に、小分けにした商品を安価で提供しており、生活必需品を身近な店で入手できるという欠かせないサービスも提供している

～2万円）を受け、収入を増やすことができました。「今では家の屋根もトタン葺きにできてお店のスペースも拡張することができました。子どもたちの学費や学用品を買うにも困らなくなったし、新鮮な魚を買って、お米のご飯で毎日3回の食事ができます。研修に出て、どうしたら商売が上手くいくかを教えてもらったことに、本当に感謝しています」

国連は1997年にマイクロ・クレジット・サミットを開催し、「2005年までに1億人の貧困世帯にマイクロ・クレジットを提供する」という行動宣言を採択しました。その目標年である今年は「国際マイクロ・クレジット年」とされ、貧困撲滅のためにさらにマイクロ・クレジットの普及を進めることができ求められています。また、2000年の国連総会で採択された「ミレニアム開発目標（MDGs）」でも、2015年までに貧困

層の数を1990年の半分に減らすことが掲げられており、マイクロ・クレジットへの期待はますます高まっています。

日本のNGOの一つであるチャイルド・ファンドは、1975年からフィリピンの子どもたちの教育と健康を支える活動を進めてきました。今では、国連の定めた「児童の権利条約」に盛り込まれた世界の子どもたちの権利（生存、発育、保護、参加の権利）を実現するべく、貧困の中にある子どもやその家族の生計向上を目指して、マイクロ・クレジットを活用しています。

特定非営利法人
チャイルド・ファンド・ジャパン

<http://www.childfund.or.jp>
Tel: 03-3399-8123

Network

グローバル
コンパクト
世界の動き

バルセロナ会議に参加して

第3回国連グローバル・コンパクト・ローカル・ネットワーク会議が9月21～23日にバルセロナで開かれました。日本からはグローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワーク(GCJN)を代表して、GCJN運営委員会の委員長会社である三井住友海上火災保険株式会社の本島なおみ氏と、副委員長会社である三井物産株式会社の仲井隆氏が出席されました。以下は仲井氏による報告です。

* * * * *

参加者は民間企業から42名(日本からの2社を含む)、各地のフォーカルポイント36名(各国の国連本部との連絡窓口:日本では国連広報センター、世界的には主に各国の国連開発計画)、政府関係者7名、国連本部GC事務所スタッフ16名ほか計108名でした。

GC事務所所長を務めるゲオルグ・ケル氏は挨拶のなかで「GCへの参加企業は80カ国以上、2,300社にまで成長した」と述べ、大きな進歩を遂げつつあるGCにとってその品質保持・ブランド管理が非常に重要であり、参加団体の「ただ乗り」を排除する必要性が強調されました。また、そのためには国連本部による中央管理からの分散が必要で、ローカル・ネットワークの自主性や、国連本部GC事務所とローカル・ネットワークの双方向によるGC推進、COP(Communication on Progress: 参加企業が国連にGC推進状況を報告するツール)の更なる充実の必要性などが提唱されました。

今後のGCはビジネスが主導し、ビジネスがその行動主体となるべきだとの意見が多く、特に多国籍企業のリーダーシップに期待感がありました。また、GCの10番目の原則である「腐敗防止」に関しては、企業のコードオブエチカルガバナンスの中枢になっており、GCの重要な要素となっていることが報告されました。

ローカル・ネットワークについては、日本をはじめスペイン、メキシコ、トルコ、北欧ネットワーク、イギリス、ブラジル、インド、マラウイの各ネットワークが活動状況を報告しました。GCJNは日本におけるCSRのトレンドやGCJNの活動状況、参加企業の主な取り組みなどを発表しました。発表後には多数の質問があり、日本企業に対する関心や期待度の高さがうかがわれました。

トピックス @UN

◎日本・国連親善大使に千玄室氏



2004年2月に来日したアナン国連事務総長(右)を迎える千玄室氏(左)【写真提供・財団法人今日庵】

財団法人日本国際連合協会会长を務める裏千家第15代家元・千玄室氏が2005年9月5日、日本政府から「日本・国連親善大使」に任命されました。

今回の決定は、日本の国連加盟50周年を来年に控え、世界の平和と繁栄を希求する日本の姿勢を国外に印象づけるとともに、国内において国連の活動に対する国民の関心を高めることを目指したもので

す。千氏はこれまでに世界62カ国、250回以上の海外歴訪を重ね、茶道を通して世界の平和のための活動を行ってきました。任命を受けて「大変名誉なことであり、同時に重い責任を感じています。これからも生ある限り世界平和に尽くしたいと念願しています」と述べました。

日本・国連親善大使として、今後は国連および国連加盟国との各種交流、親善行事への参加および茶道を通じた日本文化の紹介などを行う予定です。任期は2008年3月末まで。

トピックス @UN

◎愛知万博、盛況のうちに閉幕

「自然の叡智」をテーマに185日間にわたって開催された愛知万博が9月25日、閉幕しました。会期中、目標の1,500万人を大きく上回る2,205万人が入場するなど、21世紀初の万博は地元・愛知県を中心に大きなにぎわいを見せました。

国連館は「Celebrating Diversity - 多様性の祝祭」に焦点を当て、国連機関や基金、プログラムの活動を映像で紹介するとともに、館内のシアターで特別写真展やポスター展、学生による国連討論会、映画上映会など数多くの催しを行いました。同館への総入場者数は2,078,216人にのぼり、創設60周年を迎えた国連への関心の高さがうかがえました。

国連館へのご来館を心より感謝するとともに、万博をきっかけに生まれた国連活動への関心が、今後さらに深まっていくことを願っています。

東京・渋谷のUNギャラリーでは、2005年10月4日（火）から10月31日（月）まで、「WFP世界の学校給食展2005～子どもたちの未来を支える『いのちの枝。』～」を開催いたします。

今回の展示では『学校給食プログラム』※を中心にWFPの活動を約40点の写真と、現地で支給される援助物資の実物の展示を中心に紹介。リアリティあふれる写真と展示で、子どもたちにとって生きる力となる教育をいかに給食が支えているのかを多角的、立体的に伝えます。

世界では現在、3億人の子どもたちが慢性的に飢えています。「給食」という日本人にとって身近なテーマを掲げた本展示は、こうした現状に多くの気づきと関心をもたらす機会になることでしょう。「WFP世界の学校給食展2005」を通して、労働や空腹で通学できない子どもたちにとって「給食」が彼らの大切な未来と大きな希望を支えていることを実感できるはずです。

※『学校給食プログラム』とは？

教育の機会に恵まれない子どもたちを対象に、給食を通じて学校で学ぶ機会を広げるための活動です。開発途上国多くの子どもたちは家族を助けるために働くかなければならず、学校へ行く時間や余力、また経済的余裕をもっていません。こうした子どもたちが休まず通学できるよう、WFPは各国政府、地方自治体、国際・国内NGOと協力して『学校給食プログラム』を実施。栄養価の高い給食を提供することで、就学率と学習能力の向上に貢献しています。2004年には、世界72カ国で年間1,660万人以上の子どもたちに学校給食を支給しました。



WFPの支援物資、高カロリービスケットを手にするインドネシアの少女
©WFP/ Rein Skulderud

◆ UNギャラリー写真展 ◆

期 間：2005年10月4日（火）～10月31日（月）

午前10時～午後5時

*最終日は午後3時に終了となります

休館日：土日および祝祭日

場 所：UNギャラリー（UNハウス1、2階）

入場料：無料

主 催：特定非営利活動法人 国連WFP協会

協 力：WFP国連世界食糧計画 日本事務所



発行：国際連合広報センター

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-53-70 UNハウス8階

TEL: 03-5467-4451 FAX: 03-5467-4455

URL: <http://www.unic.or.jp> / E-mail: unic@untokyo.jp